

情勢報告（令和元年 12 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

来年度の花き生産向上にむけて ～ConfidenceFlower令和元年度反省会～



活発に意見を交わすメンバー

11 月 21 日、とされいほく ConfidenceFlower 部会は花き市場や種苗会社、花き専技等を招いて反省会を開催し、生産者 5 人が参加しました。市場からは「6 月後半から安値が続いて厳しい販売であったが、夏場の主力産地として頑張ってほしい」と励ましの言葉がありました。普及所からは、土壌分析結果から土作りの重要性、ユリ品種の高温期の生育結果を報告しました。

参加者からは「今後も土壌酸度や施肥、品種選択などの基本的な栽培技術に気をつけたい」という声が聞かれました。

普及所は高温期の切り花品質向上にむけ、今後も高温対策の取組を支援します。

省力化機器や環境測定装置導入にむけて ～農業担い手育成センター視察研修～



機器の説明を受ける参加者

11 月 26 日、高知県農業担い手育成センターで大豊トマトの生産者 3 人は環境測定装置を視察研修しました。

夏秋産地の嶺北地域では環境制御機器の導入が進んでいませんが、増収や省力化が期待できる日射比例かん水装置や自動天窓への関心が高まっています。参加者からは「天窓の開閉でハウスを往復する必要がなくなる」、「機種を選定が良く分からない」という声が聞かれました。

普及所は今回の視察研修を企画しましたが、今後も中山間地域のニーズに適した機器の探索と、導入にむけて支援していきます。

あなたの集落は大丈夫？ ～土佐町集落営農研修会～



圧倒的存在感で
観客を魅了する演者

11 月 29 日、土佐町あじさいホールにて土佐町集落営農研修会が開催され、農家 12 人、関係機関 10 人が参加しました。

最初に「中山間直払と集落営農」と題して、毎年好評の JA と普及所職員による寸劇を行いました。

続いて普及所が、土佐町の松木野営農組合の事例を紹介しました。

講演では、四万十市の（農）田野川甲営農組合の山本官理事から、組織の設立から法人の運営について、先進的な取組を学びました。組織化の際、思うほど人が集まらなかったり、経営面で苦労など、自身の経験を元にした話に、参加者は「活動の仕方などいろいろ勉強になった」と刺激を受けたようでした。

今後も普及所は、関係機関と連携して、集落営農の意識啓発を行い、集落営農組織化を推進していきます。

“チョロギ”掘りは楽しいね
～土佐町伊勢川営農組合「チョロギ収穫体験イベント」～



“チョロギ”がたくさん出てきました

12月1日（日）、土佐町の伊勢川営農組合主催のチョロギ収穫体験イベントが開催され、高知市等から21人が参加して“チョロギ”の収穫に挑戦しました。

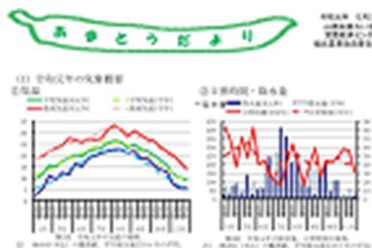
伊勢川営農組合は、平成28年からチョロギ栽培に取り組んでおり、収穫イベントも今年で4年目になります。普及所は土佐町やJAと共に、“チョロギ”の栽培からイベント運営まで支援しました。

収穫体験に加え、山里の幸を活かした昼食、正月飾り・門松づくり、餅つき体験など盛りだくさんで、初めての方も、毎年来てくださる方にも、楽しい時間を過ごしていただきました。

組合長は「組合員で協力して準備したので、参加してもらえてうれしい」と喜んでいました。

普及所はこれからも、集落営農組織の活動を応援し、中山間地域の活性化を目指します。

栽培技術向上にむけ「土佐甘とう」作付け検討会を開催



今年の栽培状況について振り返る

12月2日、土佐町で甘長トウガラシの反省会が開催され、生産者10人と、次年度に栽培を計画している2人が参加しました。

会では、生産者同士で、今年の反省点と次年度の改善案について協議し、今年特に問題となった整枝と作業性について意見を交換しました。

普及所からは、今年の気象概要と病虫害対策、定植時期の早進化について説明しました。

生産者からは、「梅雨時期の着果負担を減らし、収量を上げるために、半月程度定植時期を早めてみたい」という声が聞かれました。

普及所はJAと連携し、今年課題となった整枝方法や省力化について指導し、収量増加にむけて支援していきます。

米ナス部会反省会での経営改善指導



反省会の様子

12月3日、JA高知県れいほく園芸部米ナス部会は反省会を開催し、部会員9人が参加しました。普及所からは、部会員6人を対象に取り組んだ経営指導の中で、早期定植では低温で生育不良となったことから保温が必要である等を紹介しました。

経営指導を受けた参加者からは、「グラフを使い説明してくれたのでわかりやすかった」や「気がつかないことを知ることができたので、もっと来てほしい」等の感想が出されました。

普及所では、生産の安定だけでなく、経営の改善にむけた情報発信も継続していきます。

中山間地域の担い手確保対策 ～農業移住交流会の開催～



高知県の農業を紹介

12月7日、兵庫県尼崎市の西正寺において、嶺北地域の3町と嶺北地域農林業振興連絡協議会が合同で農業移住交流会を開催し、約25人の参加がありました。

交流会では、嶺北地域に移住あるいはUターンして農業や集落活動に携わっている4人が、移住したきっかけや現在の暮らしぶりなどを写真で紹介しました。普及所は高知県の農業の特徴や地域を代表する農産物について紹介しました。

その後、嶺北地域の山菜や農畜産物で作った料理を食べながら交流を深めました。参加者からは、「高知は食べ物がおいしい、移住者のような農業体験をしてみたい、どうしたら地域に受け入れられるか」などの声が聞かれました。

このような交流会が移住のきっかけ作りになることから、普及所は関係機関と連携し、担い手確保対策を支援していきます。

本山町特産品ブランド化推進協議会総会開催 ～今年の反省とこれから～



意見を出し合う生産者たち

12月12日、本山町役場で本山町特産品ブランド化推進協議会の総会が開催され、土佐天空の郷の生産者34人が参加しました。

活動報告、進捗状況についての報告後、普及所からは、気象条件から推察された減収要因と、今年多発したごま葉枯病やトビイロウンカなどの病虫害対策について報告しました。

参加した生産者からは「来年こそは目標収量達成したい」、「ごま葉枯病を軽減するため土作りをしよう」と意欲的な声が聞かれました。

普及所はこれからも本山町と連携し、増収・高品質化にむけて生産者を支援します。

伊勢川営農組合でウメの剪定講習会を開催



普及指導員による熱烈指導

12月15日、土佐町伊勢川で、伊勢川営農組合の生産者7人が参加して、協同で加工販売しているウメの剪定講習会を開催しました。

普及所から剪定の目的、基本的な樹形、間引く枝について説明した後、参加者全員で剪定しました。

生産者からは「剪定する際のポイントが分かって良かった」、「安定して収量を確保するために、生育を妨げる枝は除去しよう」という声が聞かれました。

高品質なウメの生産のために、今後も普及所は病虫害防除、施肥管理指導等を行います。

山間地の集落営農を学ぶ ～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会視察研修～



(農) 梅ノ木ファーム
での視察研修

12月17日、嶺北地域の農業関係機関で構成する「嶺北地域農林業振興連絡協議会」の農業部会員である行政職員及びJA11人が、高知市土佐山の久万川集落協定営農組合と高知市鏡の(農)梅ノ木ファームを視察研修しました。

久万川集落協定営農組合では「集落の農地はみんなで守る」「無理せずできるところから」と集落全員が活動している事例を、(農)梅ノ木ファームでは農地を守る有望品目として「四方竹」や「イタドリ」に取り組んでいる事例を学びました。

参加者は「山間地の厳しい環境の中でも、力を合わせてすごい活動をしている」と驚いていました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、集落営農組織設立や組織活動を支援していきます。